

CAMPUS COMMUNICATION

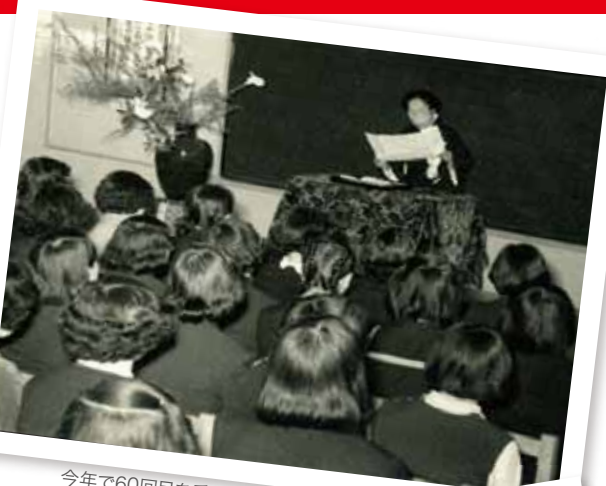
CELERY

2014
October

10

No.93

中村学園大学・中村学園大学短期大学部 広報誌【セロリ】



今年で60回目を重ねた入学式



女性教育の先駆け機関として



創立記念式典の様子

努力の上に花が咲く
おかげさまで
60年



中村学園は
おかげさまで
60周年



〔特集〕座談会『ナカムラを語る』

■ 流通科学部「Sカレ商品開発」

■ 学生企画PICKLES 目指せ!お弁当女子・お弁当男子!?

チャレンジする ナカムラ生



第48回「霜月祭」実行委員長

緒方 菜生さん 中村学園大学 流通科学部3年生

まわりのサポートがあるので
頑張っている自信がある

Q 学園祭の実行委員長になった理由は何ですか？

1年生の時、当時の実行委員長に「来年は副実行委員長を、再来年は実行委員長をやって欲しい。」と言われたことがきっかけです。学園祭実行委員会には友だちを増やしたいと思い1年生の時に入りました。実行委員長に指名されたのは、1年生の中でも私が積極的に参加したからだと思います。実行委員長を意識したのは1年生の学園祭後からです。当時は、実行委員長という役割は委員会の上の存在だと感じていたので、今の下級生たちも私のことをそう思っているかもしれません。

現在、学園祭実行委員会のメンバーは約600名。私の責任は重大だと感じています。各パートのリーダーなどの、まわりのサポートがしっかりしているので、頑張っている自信があります。

霜月祭の成功を目指す 実行委員長の緒方さんに インタビューしました。



PICKLESメンバー

インタビュー

広報アシスタント 山道 奈緒
中村学園大学 栄養科学部2年生

本学の学園祭「霜月祭」は、10月31日から3日間に亘って開催されます。今年度のテーマは『中村学園60周年 繋(つなぐ)ーこれまで、そして、これからもー』です。このテーマには、本学の学生・教職員、地域の方々、そして来場される方々全てを“繋ぐ”という想いと、学園のこれまでの歴史を“繋ぐ”という想いが込められています。

今年の霜月祭のイメージカラーは実行委員長である緒方さんの好きな情熱の“赤”。インタビューをしたのは9月の下旬で、これから本格的な準備が始まる時期でした。

Q 学園祭後はどのように過ごしていきたいですか？

これまでの3年間は学園祭中心の生活でしたが、からは就職活動に向けて勉強を頑張っていきたいです。私は国際系に興味があり、中でもアジアに関心を持っています。実は、昨年アジアへ留学をしようと考えていましたが、学園祭の準備を優先し諦めてしまいました。でも、そのかわり、韓国語検定の資格を取得しました。学園祭の1週間後が検定の日だったので、勉強が大変だったのを覚えています。

Q 最後に緒方さんにとって学園祭とは？

私のキャンパスライフの多くを占めるものです。実行委員長になってからは大変なことも多くなりましたが、学園祭後の達成感を考えるとささいい時でも頑張れます。実行委員長になることで友だちも増え、キャンパスを歩くだけで声をかけてもらえるのは嬉しいです。

CONTENTS

01

チャレンジするナカムラ生
第48回「霜月祭」実行委員長

03

座談会『ナカムラを語る』

07

活躍する卒業生

08

わがゼミ案内
短期大学部 幼児保育学科
橋本 一雄ゼミ

09

クラブ&サークル
バトン同好会

Q 活動するうえで、苦労していることや成長できたと感じることを教えてください。

やはり、大人数をまとめることです。特に、サークルに入っているという意識が薄い1年生に責任感を持つてもら

うのは大変です。



また、実行委員長なので全責任が私にあるというのはプレッシャーです。メンバーのミスを謝りに行くこともあります。しかし、大人数で活動する中で協調性が養われ、相手が求めていていることを受け止めて意見が言えるようになりました。

学園祭実行委員長として コミュニケーションの大切さを実感

Q 野中先生のゼミで『コミュニケーション学』を研究されていると聞きましたが、その理由は何ですか？

野中先生のゼミは、対人コミュニケーション、コミュニケーション能力をテーマに、日常のあらゆるコミュニケーション場面の根本を掘り下げ、観察し、追究することで人間社会を深く理解することを目的としているゼミです。

野中先生のゼミを選んだ理由は、社会に出るためにまずは話すこと、相手を理解することが必要だと思ったことと、学園祭実行委員長として学外の会議に出席したり、広報関係の打ち合わせをする中でコミュニケーションをとることの大切さを実感したからです。この学外活動を社会に出る前に経験できるのは貴重なことだと思っています。

インタビューを終えて

緒方さんは実行委員長として多忙な毎日を送っていますが、将来に向けて検定の資格をとるなど、実行委員長としての活動と勉強を両立している様子がうかがえました。学園祭の準備期間中は22時まで作業をする日もあり、メンバーとは一日中一緒にいるので家族のような関係になれると話してくれました。チームワークの良さはここにあるのかもしれない。

中村学園創立60周年という節目を迎える今年の学園祭は、実行委員長の緒方さんと学園祭実行委員会のメンバーの活躍でこれまでになく特別なものになるでしょう！



CELERY

中村学園大学・中村学園大学短期大学部
広報誌【セロリ】2014.10 October No.93



10 60周年記念事業紹介

11 流通科学部 「Sカレ商品開発」

明神 実枝ゼミ

13 学生企画 PICKLES

目指せ！お弁当女子・お弁当男子！

15 EVENT and NEWS

・学内外のイベント
・学生、教員表彰 他

栄養系

ナカムラを語る

中村卒の先生方に、学外での勤務経験をもとに
お話を伺いました。

本学を卒業後、母校へ戻った先生たちはどんな想いで教壇に
立っているのでしょうか。学外で勤務経験のある先生方による座談
会を「栄養系」「教育系」二つの系統で開催しました。当時の懐か
しい話題から楽しい学生時代の思い出、中村の先輩として在学生
に対する想いを熱く語り合っていました。



〈私たちが学生だった頃〉

中村の規則は厳しかったけど、
今となつては楽しい思い出（大部）

松隈 私はアルバイトに明け暮れていました。入
学時から料理の道に進む決意をしていたので、ア
ルバイト先はもちろん飲食店です。和食・洋食・中
華・バーテンの仕事は4年間で覚ええました。授業の
後はアルバイト先の店で色んな料理を学べるのが
とにかく楽しかった。貯まったお金で旅行に出掛
けました。そう言えば、当時の中村は大学なのに
修学旅行がありましたよね。

大部 そうそう。修学旅行があるのは珍しかつ
たですね。私は週2日、授業の後に料理学校に
通っていました。毎朝6時半には家を出て、朝から
夜まで勉強と研究で忙しい学生生活を送ってい
ました。今では考えられないかもしれないですけ
ど、当時は電卓が無いので栄養価計算はそろばん
を使っていたんですよ。私が在学中の頃はとにかく
規則が厳しくて。決まりごとがたくさんあったけ
ど、今となれば楽しい学生生活でした。

三好 さすがにお二方の先輩は自分の進む道に熱



中村学園大学短期大学部
食物栄養学科

松隈 紀生教授

（昭和43年度・中村学園大学
家政学部食物栄養学科管理
栄養士専攻卒業）

イタリア、フランスにて料理研
修、中村調理師専門学校教授
などを経て、平成5年より本学。



中村学園大学
栄養科学部

大部 正代教授

（昭和43年度・中村学園短期大
学食物栄養科卒業。平成16年
度・中村学園大学大学院栄養
科学研究科修士課程修了）

国家公務員共済組合連合会
浜の町病院栄養課長を経て、
平成21年より本学。



中村学園大学
栄養科学部

三好 恵美子准教授

（昭和47年度・中村学園大学
家政学部食物栄養学科管理
栄養士専攻卒業）

福岡市博多保健所健康課主
査、福岡市教育委員会教育支
援部健康教育課健康教育係長
などを経て、平成23年より本学。



中村学園大学
栄養科学部

安武 健一郎准教授

（平成9年度・中村学園大学家
政学部食物栄養学科管理
栄養士専攻卒業。平成21年度・
博士（薬学）の学位取得）

西九州大学健康福祉学部健
康栄養学科准教授、国立病院
機構九州医療センター厚生労
働技官（管理栄養士）などを経
て、平成26年より本学。

心に取り組んでいらしたんですね。私は卓球部に
所属していて、中村学園女子高等学校の顧問の先
生に、指導いただき、毎日、練習に励んでいました。

安武 今日は大先輩に囲まれて恐縮していま
す（笑）。学生時代、今日お越しの松隈先生の授
業も受けていました。私は平成9年度の卒業生
ですが、まだ男子学生数が少なく、女子学生
150名の中で私を含めて4名で、慣れるまで戸
惑いはありましたが、サッカー同好会に入ったり、
学園祭実行委員も経験して青春を謳歌していま
した。

〈中村で学んだ財産〉

学んだ知識と技術で時代の
変化にも対応できた！（安武）

安武 前職の臨床現場で働き始めたのは、管理
栄養士の「働く場所」が厨房から病棟にシフトし
ようとする時期でした。仕事の対象が料理から
人へ変わったんです。もし、中村で学んでいなかっ
たらかなり戸惑ったと思います。調理や給食のこ
と以外に、解剖生理や臨床栄養に関する知識と

技術が大いに役立ちました。

大部 私も病院に長く勤務していたのですが、い
つも大切だと思っていたのはチームワークです。中
村ハル先生は遠足とは遠くに歩いていくことだと
言われていましたから、大学の創立記念日には油
山までみんなで歩いていました。今思えばそう
やつて団体行動を経験したことも良い経験だつた
と思います。

松隈 壁にぶつかったときはハル先生の本「努力
の上に花が咲く」を読んで、気持ち奮い立たせ
ていました。「大変な時代に生きた先生に成し遂
げられたことが、今を生きる自分にできないこと
はない」と。努力しないことには何も始まりませ
んよね。この考えが私の人生を良い方向に導いて
くれました。

〈ハル先生が教えてくれたこと〉

笑顔で『おいかね』と
言ってくれた先生（三好）

三好 一度だけ、ハル先生に声を掛けていただいた思い出があります。学園祭で「ぜんざい」を出すことになり、使う砂糖の種類や分量を先生やクラスメイトと調理室で話し合っていた時のことです。突然、「ハル先生が「どげんね〜」といらしたのです。それまでさまざまな意見が飛び交っていた中、ハル先生のひと言で調理の方向性がすぐにまとまりました。その時、「ハル先生の存在意義は大きい」と改めて感じましたね。そして「ぜんざい」を召し上がったハル先生が笑顔で「おいしかね〜」と褒めてくれたんです。嬉しくて今でも忘れられません。

大部 学校の仕事を終えたハル先生が、夜間の調理学校に顔を出してくれていました。みんなの様子を伺うと、にっこり微笑んでくれたことを覚えていています。やさしい笑顔が印象に残っています。

松隈 当時、週に二度、全学生が集まってハル先生の講話を聞く時間があったんです。お話を聞きながら、ハル先生の偉業を知ることができました。講話の準備は男子学生がイス運び等に駆り出されて、その時にハル先生と直接話す機会がありました。今思えば貴重な機会だったなと感慨深いですね。

安武 私にとってハル先生は伝説的な存在です。料理と教育に生涯をささげた先生の代表的な言葉「努力の上に花が咲く」は説得力があつて私が最も大切にしている言葉です。皆さんのように、直接お会いする機会がなかったのが残念です。

〈中村が変わったこと、変わらないこと〉

変わらず、受け継がれている
中村らしさがある（松隈）

大部 世の中の変化とともに、学生の雰囲気も変わってきましたね。私の時代は制服を着ていた

ので常に「中村生」の自覚と責任が自然と身についていたんです。街中を歩いている時も、制服を見れば「目で」中村生と分かるから当然悪いことなんてできませんよ（笑）。今、学生たちのファッションセンスは高くなりましたが、一方でTPOに応じた服装の使い分けが昔に比べて上手ではなくなったとちょっと残念です。

三好 そうですね。制服から私服変わったからこそ、学生一人ひとりのマナーや常識も美しいものにして欲しいですね。いつも口を酸っぱくして言っているけど、一般常識を身に付けた気配りのある社会人はどの職場に行っても可愛がられるんです。昔から「中村生は礼儀正しくマナーが良い」と、多方面の方に言っていたので、その言葉を裏切らない行動をして欲しいと思います。

松隈 中村は昔から他の大学が導入していないことがたくさんあつて、それが今でも受け継がれていますね。私は大学の1期生ですが、「指導主任制度」は当時から既に導入されていて授業前には点呼もありました。当時は「大学生なのに」と疑問に思うこともありましたが、整った制度があるからこそ規律正しい校風が今でも継承されているんだと誇りに思います。

〈自分の経験から伝えたいこと〉

学んだ知識を自分の言葉で
伝えることが大事（三好）

三好 学校ではいろんなことを教えてもらえますが、理論をたくさん蓄えるだけで満足してはいけません。大事なのは学んだことを自分の言葉に言い換えて、どんな相手にでも理解してもらえるように伝えることです。難しい専門用語を言うだけでは相手には伝わりませんし、不親切だから。いかに相手の立場になって親身になれるか、

これも日々の経験で身に付けていくことです。

大部 そうですね。それに「学生生活が楽しかった」と思っただけ。私自身、中村に入学して良かったと思える経験があるからこそ、今度は私がその想いを感じてもらえるように指導することが使命だと思います。時には厳しい言葉が出るかもしれませんが、個人と先生が向き合う教育が中村の強みなんですよ。

安武 私も大学や臨床現場で素晴らしい経験をたくさんしてきました。それらの経験を活かして、まずは学生たちに管理栄養士という職業のやりがいや、奥深さ、苦しみ、楽しさを具体的に伝えていきたいです。そして感性豊かな管理栄養士を育てていきたいですね。

松隈 私が一番伝えたいのは夢は必ず実現するということです。ただし、夢に向かって「今何をやるべきか」を明確にして実行しなければ夢物語で終わってしまうのです。ハル先生は69歳で中村学園を創設する壮大な夢を実現しました。若い学生たちにもっと大きな夢を持って前進して欲しいですね。

〈在学生へのメッセージ〉

息づく中村イズム。誇りを持って
社会へ出ましよう（松隈）

松隈 中村学園で実技も理論も学んでいたから職場で困ることなく仕事が続けられました。知らず知らずのうちに身に付いた「中村イズム」は社会に出た時にパワーを発揮して役立ちますよ。苦労する経験は人生の糧になるので、若い時はがむしゃらに頑張ってください。

安武 中村の学生は純粋で良い子が多いですよ。

ね。これは素晴らしいことだと思いますよ。周囲の話を素直に受け入れる性格はきっと社会に出た時も良い印象を与えることでしょう。人を敬う心を養って、信頼される魅力的な管理栄養士を目指して欲しいです。

三好 伝えたいことはたくさんありますが、「礼儀」「笑顔」は最高の武器になります。いつまでもこのことを忘れずに、学生生活を謳歌して素晴らしい社会人になることを願っています。

大部 努力の前に工夫があることを覚えて欲しいですね。献立を考える時も工夫が大切です。自分で試行錯誤しながら考えて編み出したものこそが自分自身のアイデアですから。頑張ってください。



ナカムラを語る

教育系

〈私たちが学生だった頃〉

学生時代の経験が
今に繋がっています (吉川)

山田 私はダンスサークルに所属して学園祭で発表会に参加したことが一番思い出に残っています。本番前になるとメンバーと熱くなって毎日練習して、本当に楽しかったなあ。

中村 私も一番の思い出は学園祭です。学園祭の実行委員をしたことが良い経験になりました。学外では、英会話にピアノ、美術館巡り、登山などアクティブに過ごしていました。

平田 学園祭ねえ。私は女子学生ばかりの校内で肩身の狭い思いもしましたが、学園祭の準備で重い荷物を運ぶ時だけ重宝されました(笑)。当時、男子学生は全学で10名程度だったんです。「男子会」というのがあって、縦の関係に厳しくて鍛えられました。今は男子学生が増えたので難しいかもしれませんが、このような会がまた発足してくれると良いですね。

吉川 私は児童発達支援センターしいのみ学園

でのボランティア活動に参加していました。それが今の仕事に繋がっているんですよ。振り返る意義ある学生生活だったと思います。

〈建学の精神「理論と実際の統合」について

迷った時は学生時代のノートが
導いてくれる (山田)

吉川 実は、学生時代に使ったノートや日誌は捨てがたく大事にとっているんです。時々読み返してみると、学校で学んだことは何年経っても役に立つんだなと感じます。

山田 よく分かります。私も仕事で壁にぶつかった時は学生時代のノートを開くんですよ。直面している問題に対して、解決策となる「ヒント」が残されているから。今でもそのノートに助けられています。在学中は理論中心の勉強が多くて実践力不足を痛感していたんです。でも、社会に出て勤務経験が長くなるにつれて、理論が支えとなっていくことに気づきました。理論のおかげで、応用が効くようになるんです。



中村学園大学 教育学部
平田 繁准教授

〔中村学園大学付属
あさひ幼稚園園長〕
(昭和57年度・中村学園大学家政学部児童学科児童教育学専攻卒業。平成5年度・国立兵庫教育大学大学院学校教育研究科修了)

広川町立中広川小学校教諭、大川市立三又小学校教諭、立花町立光友小学校教諭などを経て、平成19年より本学。



中村学園大学
教育学部
山田 朋子 講師

(昭和63年度・中村学園短期大学幼児保育学科卒業。平成18年度・中村学園大学大学院人間発達学研究科修士課程修了)

中村学園大学付属あさひ幼稚園教諭、中村学園大学付属おひさま保育園保育士を経て、平成20年より本学。



中村学園大学
教育学部
吉川 寿美 助教

(昭和63年度・中村学園大学家政学部児童学科児童学専攻卒業。平成18年度・中村学園大学大学院人間発達学研究科修士課程修了)

知的障害児通園施設光の子会学園指導員を経て、平成21年より本学。



中村学園大学
教育学部
中村 恭子 助手

(平成14年度・中村学園大学家政学部児童学科児童学専攻卒業。平成25年度・中村学園大学大学院人間発達学研究科修士課程修了)

学校法人けやきの木学園がなずみ幼稚園教諭を経て、平成26年より本学。

〈ハル先生に想いを馳せて〉

『努力の上に花が咲く』の意味を
解くのは自分自身 (平田)

吉川 現場に出ると上手くいかないこの方が多くて戸惑いました。そういう時は決まってハル先生の「努力の上に花が咲く」という言葉を思い出します。私にとってハル先生の言葉は、頑張りが必要な時に背中を押してくれる励ましの言葉なんです。

中村 影響力のある方ですよ。女性が仕事を持つことすら難しかった時代に、強くたくましく生きたハル先生。その生き方を知って感銘を受けました。ハル先生の行動力や強い信念は、同じ女性



性として「層」努力し続けたいと奮い立たせられます。



平田 ハル先生の「努力の上に花が咲く」という言葉の意味を解くのは自分自身です。学生時代にはピンと来なかったけど、卒業後にひしひしと感じ、学級通信のタイトルに付けたほどです。この言葉は教育現場に出てから、もっと深く意味が分かります。実践した人だけがその意味を知り、

実感できる大切な言葉です。

〈中村が変わったこと、変わらないこと〉

私も先生と一緒に
ランチしたかったな(笑) (中村)

中村 学内を歩いていると、廊下や教室で教職員と学生が楽しそうに会話をしている様子をよく見かけるようになりました。「食育館」で教職員が学生の輪に混ざって一緒に食事をする姿を見ると「私の時代に比べて距離が近くて素敵だな」と、羨ましく思います。学生にとつていろんな悩みや相談を話しやすい環境ですね。

吉川 ええ、学内全体がアットホームで良い雰囲気だなと思います。授業態度も、私の在学中に比べると私語もなくて真面目な学生が多くなったなと思います。

山田 今も昔も変わらないのは、教職員が学生一人ひとりを大切にしていることです。学生と熱心に関わり、誠実な姿勢で向き合う良い習慣が続いているのは本当に素晴らしい。私が中村に戻って来た時、自分のことを覚えていてくださった先生がおられてすごく嬉しかったです。きっと挨拶など何気ない関わりの中でもしっかりと見守ってくれていたのだと思います。同じ教育者として、頭が上がりません…。

平田 私の時代と大きく変わったのは何といつても校舎ですね。中村のトレードマークだった制服も無くなりました。私の世代は、みんな同じ装いなのでとにかく中身を磨いていました。服装が自由になると外見で個性を主張できますからね。だからこそ「自分にしかない強み」を重視して欲しい。就職活動の時は、みんな同じリクルートスーツに身を包んで勝負をしますよね。最終的

に人は外見だけでアピールするのではなく、内面で勝負することに変わりはないんですよ。

〈自分の経験から伝えたいこと〉

何がどこで役立つかわからない。
「経験」は重要 (中村)

中村 私は在学中にオーストラリアに留学し、海外の保育を勉強したいと思うようになりました。何に繋がるのかは意識せずに動いたことが、新しい道を開いたんです。今後はステップアップしてこの経験を何に活かすかを考えながら挑戦していきます。

山田 そうですよ。『経験』が何より大切だと思います。学生時代にたくさん教職員の方々と出会い、日々のやり取りや失敗を含む経験の全てが貴重な財産です。

吉川 経験を積んだ数の分だけ答えが見つかることもあれば、悩みや課題が増えることもあります。でも、失敗を恐れずにいろんな人との繋がりを大切にして、さらに学び続けていきたいと思っています。

〈在学生へのメッセージ〉

友人との信頼関係が
教育者として大切なこと (平田)

中村 卒業して10年以上経ちますが、振り返ってみると学生時代に学んだことが今に繋がっています。勉強、アルバイト、友人との旅行や趣味活動など夢中になったものは全てが幼稚園教諭の仕事に活かされているんです。何かに挑戦することは緊張や不安も伴いますが、「やってみよう」と思う勢いが強いのは若さゆえの特権。好奇心旺盛に、挑戦する意欲的な気持ちと実践力を大事にして欲しいです。

盛に、挑戦する意欲的な気持ちと実践力を大事にして欲しいです。

吉川 学生時代にしかできないことをしっかりと学んで欲しいですね。学内での交流や経験以外に、ボランティアやアルバイトで繋がる外部との出会いや関わりなども大切にしてください。視野を広げると多くの出会いと経験、気付きがあり、新たな進路や人生に出会えるのではないのでしょうか。

山田 何より大切な事は人との出会いだと思っています。保育士の現場では、人との出会いという「線」が、次第に網目の様になるのが楽しいんです。全ての出会いには意味があつて後々続く縁になると思っています。まずは友人や仲間を大切にして楽しい思い出をたくさん作って欲しいです。

平田 学生に伝えたいことが3つあります。「グローバルな思考で、行動はローカルに」、「成すことによつて学ぶ」、「自分の大事な評価するのは友だちである」。特に3つ目の言葉を大切にして欲しい。私は、友だちに信頼されることは教育者として、大事な意味合いがあると思っています。学生生活で友だちの信頼を得ることは、教員になった時「あなたに自分の子どもを預けたい」と保護者から信頼を得ることに繋がります。友だちを大事に思いやる優しい心をいつまでも忘れず、誠実で謙虚な姿勢を持ち続けてもらいたいです。

「栄養系」と「教育系」の8名の先生方、
「協力ありがとう」ございました。

活躍する卒業生

Graduate of Nakamura



飯塚市立認定こども園幸袋こども園

井上 拓さん

平成25年度 中村学園大学短期大学部
幼児保育学科 卒業

日々、子どもたちと 一緒になって楽しんでいきます。

密度の濃い2年間を経て
地元で保育士に

高校時代、将来自分がしたいことは何だろうと考えた時、真っ先に子どもが大好きな自分にふさわしい「保育士」という職業が思い浮かびました。それから保育士になるためのカリキュラムが充実していることや進路指導の先生からのアドバイスもあり、中村に進学することを決めました。

中村では基礎からみっちり学ぶことができ、本当に密度の濃い2年間で過ごせたと思います。入学後から学んだピアノも先生方の丁寧な指導で上達することができました。

短大2年次の秋に私の地元である飯塚市の保育士募集に応募しました。応

募者約60名中、合格者8名という競争で、保育士経験者もいる応募者の中から新卒である私が選ばれるとは思っていませんでした。合格を知った時には驚きと嬉しさが入り交じった気持ちで一杯でした。今思えば、集団面接で自分が中村で学んだことをしっかりアピールできたのが良かったのだと思います。

保育士になって半年
ますます子どもが好きになった

今年の4月、卒業と同時に念願だった保育士になり、現在、飯塚市立認定こども園幸袋こども園で、2歳児（14名）の担任を務めています。保育士になって約半年。初日には私の顔を見て泣き出す子どももいて、これから自分は保育士として

やっていけるだろうかという不安だらけのスタートでしたが、自分なりに努力し、今ではだいぶ慣れてきました。

子どもたちと接するうえで大切にしていることは、子どもたちの中に入って一緒に遊んで遊ぶことです。私自身も楽しんで遊ばないと子どもたちも楽しくないと思っていますし、ダンスをするにしても私が一番楽しんでやろうと心掛けています。やりがいはいは、子どもたちの成長です。日々成長している子どもたちを間近で見るのが楽しみで毎日、月日が経つにつれて子どもがますます好きになりました。

男性の保育士は少ないですが、仕事をするうえであまり男女の差を感じたことはありません。保育士は、やりがいのある仕事なので、もっと男性の方にも保育士になって欲しいです。中村で保育士を目指して学んでいる後輩たちのいいお手本となれるよう、これからも楽しみながら頑張ります。



園児を迎えに来る保護者の方にその日の出来事を伝えるようにしている井上さん。「保護者の方に“ありがとう”という感謝の言葉をいただいた時は、とても嬉しく思います」。

上司からのメッセージ



飯塚市立認定こども園幸袋こども園
副園長

宮田 絹子 様

井上さんについて

一年目で、園のさまざまな行事もすべてが初めてで大変だと思いが、いつも笑顔で元気いっぱい。女性だけの職場の中で、子どもたちからお兄さんの存在として慕われています。素直で、私たちの話にもしっかりと目を見て聞いてくれますし、挨拶もしっかりしています。技術面についてはまだまだこれから成長していく必要がありますが、経験を積み、将来、素晴らしい保育士になってくれると期待しています。

今はお父さんと子どものスキンシップが不足している家庭が多い状況なので、その観点からも、井上さんのような男性の保育士は貴重だと思っています。

保育士を目指す学生へ

保育士に向いている人は、明るく、前向きであり、子どもたちの気持ちに寄り添って保育できる人です。そのためには、保育の知識を学ぶだけではなく、常に自分を磨いて、人間的にも成長することが大切なことだと思います。

私たちのために行事を企画してくれる優しい先生です! //

Welcome to Our Seminar

わがゼミ案内

短期大学部 幼児保育学科 橋本ゼミ (2年生17名)



子どもの規範意識を培うこと それが保育者に求められる力。

週に一度の授業以外でも、合宿やイベントを開催している
チームワーク抜群の橋本ゼミ。保育者を目指すうえでも必要とされる
「他者を思いやる気持ち」を大切に実習の準備や研究に取り組んでいます。

(橋本先生の口癖)
謙虚な気持ち

講師
橋本一雄 先生



大切にしているのは他者を
思いやる気持ちを持つこと

子どもが成長していく過程で次第に形成されるのが規範意識。自分で善悪の意識を形成するようになることです。橋本ゼミではその規範意識を子どもたちが身に付けていく過程について学んでいます。

橋本先生の研究テーマである市民性教育の起点は、幼少期の子どもが他者と「共に生きる」ことについて考えることにあり、先生曰く、「子どもが集団生活の中で協力することを学び、他者に受け入れられるためには自分も他者を尊重しなければならないのだ」という認識をどのような体験の下で育んでいくのか、保育者はそうした点にも配慮する必要があります。

また、こうした幼少期の子どもが規範意識を形成していく過程では「保育者の褒め方叱り方も大きくそれに関係するもの」と言われています。子どもに行動の規範を示すために、保育者は、どのような場面でもどのように褒めたり叱ったりすることが必要なのか、ゼミでは、学生に実習での体験などを発表してもらいながら、共に考えています」と先生は話します。

指導の手応えを尋ねると「学生たちのポテンシャルは高く、実習や発表も回を重ねるごとに水準が高くなるのが嬉しい。後学期では絵本作作をする予定なので今からが楽しみです」とのことでした。

自分の力を過信せず
謙虚な気持ちを忘れずに

橋本先生はいつも「保育者は子どもたちの前で、先生スイッチを自在に入れられるメリハリが必要だ」と学生に伝えています。

そして「自分の保育に関する知識や技術を過信して傲慢にならずに、謙虚な気持ちを忘れない保育者になつて欲しい」と想いを語ってくれました。

このゼミで取り組むテーマは、日本の学校教育では平成20年から本格的な取り組みが始まった「法教育」という分野。ゼミでは規範意識を育むための絵本や紙芝居について発表や紹介を行っており、今年は、谷川俊太郎・和田誠作『ともだち』（玉川大学出版部）、中川ひろたか・村上康成作『みんなともだち』（童心社）など、「他者の尊重」というテーマを考えるために「ともだち」に関する絵本を取り上げました。

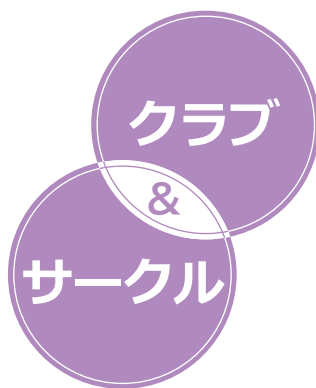
ゼミ生によると「先生が薦める絵本は素敵なものばかり。過去に読んだ絵本を先生の解説後に読み返すとメッセージの意味がよく深く理解できて、新しい価値観に出会えます」と評判です。

「いつもおだやかで優しくイベント好き」と言われる先生。「短大は2年間しかないの、できるだけ行事を企画して学生たちに楽しい学生生活の思い出を作つてあげたい」と優しい笑顔を見せてくれました。

Profile

1977年生まれ。立命館大学法学部卒業、法政大学大学院社会科学部研究科修士課程、九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程単位修得退学。現在はフランスの移民政策やイスラム系私立学校に対する教育行財政を研究している。20代の頃には辻仁成の小説に登場する国内外の土地を訪ね歩いた。好きなアーティストは「くるり」、お笑い芸人では「中川家」がお気に入り。





CLUB & CIRCLE

バトン同好会

◎部員数／16名

◎部長／喜多 亜子
(流通科学部2年生)



明るい声と笑顔が飛び交うバトン同好会。先輩が後輩に丁寧に教える様子も見られる。



全員が真剣に練習に打ち込むため、「3時間の練習はあっという間に終わってしまう」とのこと。



バトントワリングの魅力伝える、 少数精鋭の同好会。

音楽に合わせて体育館で練習に励むバトン同好会。部員同士の仲が良く、みんなでバトントワリングを楽しんでいます。

「体を動かすのが好き、表現するのが好き。そんな気持ちがあれば経験者も初心者も関係ありません。みんなが力を合わせてバトンを楽しむ環境が、うちの同好会の自慢です」。部長を務める喜多さんは、目を輝かせて話します。

16名の部員は、月曜日と金曜日の週2日、夕方16時半から19時半までの3時間を使って練習に打ち込みます。バトン経験者が殆どですが、部員16名中4名は中村に入学してからバトンを始めた初心者。「バトンは難しいと思っている人も多いかも知れませんが、基本の動作は1、2カ月ほどでマスターできますし、経験者が初心者をサポートする体制ができていたので心配いりません。大学から新しいスポーツを始めたいという学生も大歓迎の同好会です」と、喜多さん。

発表の場は多く、今年度は博多どんたくのパレードにも参加。博多どんたくでは沿道の多くの人から拍手をもらい、部員全員が感動を分かち合うことができたということでした。現在は霜月祭で披露

する演技のために練習を重ねています。

また、同好会で選抜された7名は大会にも参加しており、9月に行われたマーチングフェスティバル2014福岡県予選においては見事に金賞を受賞。10月に開催された熊本での九州大会においても金賞を受賞し、全国大会へ参加することになっています。

厳しい中にも、楽しむこと、笑顔を絶やさないことをモットーに練習に励む日々。「メリハリあるバトン部での活動を通じて、助け合う心や礼儀を学び、みんなが成長してくれることを願っています」と、最後に喜多さんは話してくれました。



小学1年生からバトンを始めたという喜多さん。高校時代には全国大会に出場した経験もあるとのこと。リーダーとしてバトン部を牽引している。



寺澤教授による講演の様子

平成26年9月6日、本学体育館にて食育講座「健康寿命をのばそう!!」を開催しました。本講座は、厚生労働省が平成25年度より取り組みを始めた「健康日本21(第2次)」において提唱する「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」の実現を目指して、地域の方々が自分の健康は自分でつくるという意識で健康づくりに取り組めるよう、本学の食育推進委員会が企画したものです。講座には、健康に関心を持つ20〜80代の幅広い年代の方々にご参加いただきました。

はじめに、『ロコモ予防の運動』と題し、栄養科学部の熊原秀晃講師による講演・実技が行われました。ロコモティブシンドローム(ロコモ)は、運動器自体の疾患と加齢による運動機能不全により介護が必要になるリスクが高い状態をいいます。ロコモはメタボリックシンドローム(メタボ)と並ぶ深刻な社会問題であり、加齢とともに介護リスクが高まり健康寿命が短くなると言われています。メタボやロコモを予防するには、単に食事を減らすことよりも基礎体力を保持することが重要とされ、手軽にできるロコモチェックや、ロコモ予防に役立つトレーニング法について紹介されました。また実技では、豊富な運動効果があり誰でもできる



ステップ運動(踏み台昇降運動)を実践しました。参加者は、軽快な音楽のリズムに合わせて軽い汗をかきながら自分に合った運動量を確認していました。

次に、『骨量アップはコツコツと地道な生活から』と題し、食育推進委員会委員長である短期大学部食物栄養学科の寺澤洋子教授による講演が行われました。ロコモはサルコペニア(加齢による筋肉の衰え)や骨粗鬆症が主な原因と考えられており、年齢による骨量の変化や積極的に摂りたい栄養など、食生活の視点からロコモ予防を提示されました。

和食は、日本の伝統的な文化として無形



熊原講師による講演・実技の様子

文化遺産に登録され、汁三菜を基本とする食事スタイルは、栄養バランスの優れた健康的な食生活として注目を集めています。健康づくりの三要素は栄養・運動・休養であり、適度な運動とバランスのとれた食事を日常に取り入れることが健康を維持する秘訣です。

本学の学生食堂『食育館』は、健全で豊かな食生活を送るために必要な「食事の自己管理能力」を養う食育の場として「汁三菜を基本とした定食を提供しており、精算シートには、「1日に何をどれだけ食べたらいいか」をコマのかたちで表した「食事バランスガイド」を取り入れています。

講演終了後は、『食育館』で良質なたんぱく質とカルシウムや鉄分を組み合わせた汁三菜定食を喫食し、栄養バランスの大切さを実感しました。

食育講座「健康寿命をのばそう!!」

学校法人中村学園創立60周年記念事業



一汁三菜定食を喫食

流通科学部 Sカレ商品開発

おしりにフィットする
浴室用の木工椅子

ホツとChair
が商品化されました!



学生のアイデアが
凝縮された椅子
『ホツとChair』

大学として九州で唯一Sカレに参加

マーケティングを学ぶ学生たちが「ビジネス・モノづくり・発想力」をリアルな現場で学ぶプロジェクト「Sカレ」(スチューデント・イノベーション・カレッジ)。流通科学部の明神ゼミは、大学として九州で唯一、平成23年から参加しています。平成25年度のSカレには全国28大学32ゼミから400名を超える学生が参加しました。

明神ゼミから参加した、チーム『博多っ子』のメンバー(流通科学部4年生・4名)は、老若男女問わず利用できるユニバーサルデザイン木工家具という課題のもと、昨年の5月からプロジェクトをスタート。チームは、まず身近な高齢者を中心にヒアリングを開始しました。4名全員が「作るならお年寄りに優しい木工家具にしたい」という想いを抱きながら調査を進めました。

ネットでユーザーの意見を募り、商品化へ

チームは入念な調査をもとに、誰もが安心して利用できる浴室用の木工椅子を考案。この企画を持って、6月に行われたSカレのワークショップで各企業担当者に向けて提案し、アイデアが面白いと評価を受けました。7月からは商品化に向けたクラウドファンディング(インターネット上で企画アイデアを公開し、ユーザーの意見を集めて、デザイン制作の費用を募ること)を開始。ユーザーから

「自分の想いを人に伝える難しさを実感」

多くの人の前でプレゼンテーションする機会があり、自分の考えを上手に他人に伝えることの難しさを実感しました。私は人前で話しをすることが苦手だったのですが、話し方にも徐々に慣れてきたことは収穫でした。明神先生の的確な指導もあり、自分なりに成長できたと思っていますし、学外の方と話す機会もありとても勉強になりました。

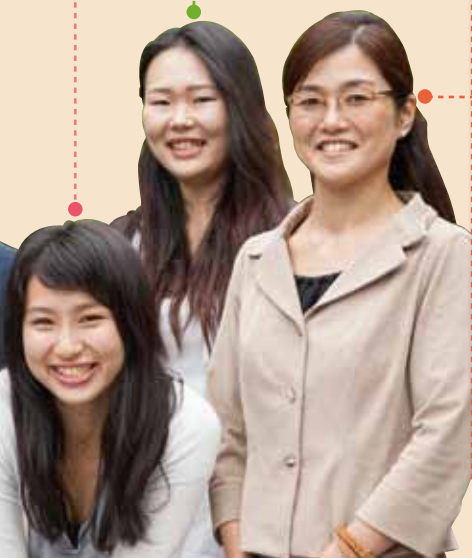
高石 すみれさん

チーム
『博多っ子』学生
&
明神先生コメント

「妥協することなく努力した」

学生たちは、どこまでもユーザーの気持ちに寄り添っていました。高齢者を含むさまざまな方に話を聞くだけでなく、「話されなかったけれど、もっとこうしたらその方の生活がより快適になるのでは?」という言葉にならない声にまで心を配って、商品を作り込んでいました。この創造的な観察力は、今の成熟経済時代において重要だと思います。これからも、彼らのメーカーとしての活躍に期待しています。

明神 実枝 准教授



◀2013

Sカレ
活動の流れ



◀2014

アイデア

クラウドファンディング

商品化検討・商品化

予約販売

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

7月

8月

「ホッとChair」のこだわり

※写真は試作品の模型で、形状は同じですが実際は木工の温もりのある商品です。

① ちょうどいい椅子の高さ

高さは40cm。立ったり座ったりする時、腰への負担がかかりにくい高さ設定です。



② おしりにフィットする座面のアール形状

座面は平らではなくおしりにフィットするように少しくぼみをつけてあり、座ると安定感があります。



③ ヒノキを使用

素材にヒノキを使用。ヒノキの香りにはリラックス効果があり、また防虫効果もあると言われています。



④ 移動しやすい・持ちやすい

座面裏は指を引っ掛けられるザグリ加工を施し、座ったまま前後左右に移動しやすくなっています。また、座面の水抜き穴は手が入るサイズになっていて持ち運びがしやすいのが特徴です。



リラックス効果がある
ヒノキを使用した椅子です

特別なあの方へ...贈り物にいかがですか?
ただ今、ご注文受付中!!

[サイズ] 高さ:40cm、横幅:40cm(座面/縦:30cm、横:40cm)
[価格] 13,800円(税込み)

◎ご注文はウェブサイトで

「ホッとChair」予約販売サイト

<https://cuusoo.com/projects/2713>



全員が協力し合い、楽しみながら挑戦

商品化されたユニバーサルデザイン木工家具の椅子は、木の温もりのある椅子に座って浴室でホッとしたいという想いから『ホッとChair』と名付けました。長期に亘ったプロジェクトに挑んだチーム全員は「みんなで協力し合ったので特に辛いと感じることはなく、楽しみながら挑戦できました」と口を揃えます。学生たちの努力の結晶である商品は、今年の8月から予約を受付中。受注してから生産するシステムになっており、発注を受けてから一つひとつ丁寧に作られます。

多くの貴重な意見をもらい、費用面でのサポートも得ることができました。
約3カ月でクラウドファンディングを達成したチームは、経験豊かなデザイナーや木工家具職人と協議しながら仕様設計を決めるなど、商品化に向けて詰めの段階に入りました。そして、11月には改善を重ねた企画をSカレの最終発表会にてプレゼンテーション。しっかりと準備して全力で挑んだ結果、半年以上かけて練られた企画は認められ、ついに商品化されることとなりました。



全国の大学が集う「Sカレ」で企画をプレゼンテーション

「しっかりした 事前リサーチが実を結んだ」

より魅力的な椅子にするため、私の祖父母をはじめ多くの人にヒアリングしましたが、多様な意見をしっかりと自分で把握して、いかに商品に付加価値をつけていくことが難しいかを学びました。完成した時はしっかりと事前にリサーチしておいて良かったと感じました。「ホッとChair」は、多くの人の声が詰まったとてもいい椅子です!

香月 英人さん

「商品化は チーム力の勝利だと思う」

1、2年生の時に学んだマーケティングの知識を、明神先生のゼミに入った3年生になってから実践に移すことができました。長期間の活動で、4名それぞれの役割分担もしっかり行うことができたと思いますし、商品化されたこのプロジェクトはチーム力の勝利だと思います。協力し合うことの大切さも学べ、良い経験になりました。

徳森 由里恵さん

「中途半端では 終われない気持ちだった」

作るからには中途半端で終われないと考え、最後までしっかりやり遂げたいと思って努力しました。プロジェクトを通じて、世の中にある一つひとつの商品が完成するまでに多くの人に関わっていることを知ることができ、モノを見る目が変わりました。来春、小売業の会社に就職しますが、今回の経験を活かして頑張りたいと思います。

小林 純也さん



PICKLES

【ピクルス】

第2回

目指せ! お弁当女子・お弁当男子!?

松隈先生と一緒に、楽しく栄養満点なお弁当を作っちゃおう!!

前号の初回に続き、第2回目となる今号では、PICKLESメンバーが短期大学部食物栄養学科の松隈美紀先生のお力を借りて、3学部に分かれてお弁当づくりに挑戦しました。



「PICKLES」は、本学のスチューデントジョブ制度に登録している広報アシスタントが主体となっており、中村を紹介する学生チームです。

栄養科学部

☆「とっておき元気弁当」☆



山道 奈緒さん(2年生)

「授業で学んだ調理方法を使い、お弁当を作りました。学生は普段パンを食べることが多いので、パンを使いつつバランスの良いように作りました。また、栄養計算では実習や授業などで学んだことを活かして栄養面を考慮して調理しました。チーズなどで価格が高くなってしまったので、ヨーグルトを代用すると価格を抑えることができます。また、ベーグルに挟むものを変えるとオリジナルのお弁当ができるのでぜひ、作ってみてください」。



■ 松隈先生・寸評

さすが栄養科学部の学生。栄養計算がしっかりできていて、調理の手際も素晴らしいかったです。しかし、エネルギーが少なく食塩が多いことが改善点でしょう。



【作り方】

【1】サーモンとディールのベーグルサンド

(1) ベーグルは横に半分に切る。



パンはお好みのもので、ライ麦パンもおすすめです。

(2) カッテージチーズに枝を除いたディールとレモン汁を加え、よく混ぜ合わせる。

(3) 下から、カッテージチーズ(2)→スモークサーモン→カッテージチーズ(2)の順でパンにのせ、ラップでくるみ、ぎゅっと押して具とパンをなじませる。



チーズはぽろぽろとまとまりにくいので、スプーンで押しながら乗せてください。ラップを用いて、ぎゅっと押し少し置くと、空気が抜けて、切った断面がきれいになります。

(4) ラップをくるんだ状態で半分に切り、新しいラップでくるみ直しておく。



【2】ササミとヘーゼルナッツのサラダ

(1) ササミはラップでくるみ、電子レンジで加熱する(600w:約2分)

(2) ほうれん草は耐熱容器に入れ、電子レンジで解凍する。

(3) ササミをほぐし、ほうれん草と合わせ、塩・こしょうをふり、なじませる。

熱いうちに合わせるとなじみます。



(4) サラダ菜とミニトマトは水で洗い、ペーパータオルで水分を取る。



(5) サラダ菜をしいた上に(3)を乗せ、ヘーゼルナッツ、豆をトッピングし、ミニトマトを添える。

豆、ナッツはお好みのもので。

教育学部

☆「“わいわい”どうぶつえん弁当」☆



月原 早耶香さん(2年生)・櫛山 佑樹さん(2年生)



■ 松隈先生・寸評

レシピのイラスト通りのイメージで、とても良い仕上がりでした。主菜副菜などを使っていますが、もう少しおかずになるものを入れて、バランスの良いお弁当にして欲しいと思います。

《月原さん》「動物園をモチーフに、子どもたちに喜んでもらえるようなイメージで作りました。動物の表情や動きなどをかわいく見せることができるように、置き方を工夫しました。しかし、持ち運ぶと動物が崩れてしまうのでそうならないような工夫が必要だと思いました」。

《櫛山さん》「実習に行った時に、実際に親御さんが作ったお弁当を楽しそうに食べている子どもたちをみて、「かわいく楽しめるお弁当」を目指して作りました。食材を柵や岩に見立てることが難しかったです。教育学部らしいお弁当ができたと思います」。

流通科学部

☆「手軽に食べれる流通ランチBOX」☆



家村 恭輔さん(3年生)・河津 舞子さん(3年生)・大津 涼太郎さん(2年生)



■ 松隈先生・寸評

お弁当のバランスも良く、イラストのイメージ通りですが、グリーンが多く、彩りが足りなかったと思います。ポテトサラダなどの量を調整する必要があります。

《家村さん》「料理をすることが初めてだったので、包丁さばきが上手にできませんでした。彩りが良いように調理しました」。

《河津さん》「最近雑誌やカフェで流行しているエッグベネディクトをお弁当に取り入れてみました。男女関係なく満足できるボリュームに仕上げました。あまり、お弁当では食べることが少ないエッグベネディクトを入れた新規性がウリです」。

《大津くん》「おしゃれで手軽なお弁当をコンセプトに作りました。流行のトレンドをお弁当に取り入れたところは流通科学部らしさだと思います。弁当の彩りだけではなく、弁当箱や風呂敷などにもこだわりたいと思いました」。

私たちが取材しました!



川崎 亜香音さん(流通科学部 4年生)
高木 良輔さん(流通科学部 4年生)

楽しみながら作らしましょう! 短期大学部食物栄養学科 松隈 美紀 准教授



栄養科学部は普段の授業で教わる栄養計算をお弁当に盛り込み、教育学部は見た目を子どもが楽しめるようなデザインにし、流通は最近の流行を取り入れたお弁当を作っていると思います。それぞれの学部の特徴が表れているお弁当だったと思います。これを機にお弁当作りを継続してもらいたと思います。

最後に、料理は楽しく作ることでストレスの解消にもなります。楽しみながら作ってください!



食物研究部団体表彰

―平成25年 J A福岡市「農業・地域協同活動支援基金」―

平成26年6月27日、平成25年J A福岡市「農業・地域協同活動支援基金」の表彰が行われ、本学の食物研究部が団体表彰に選ばれました。この基金は、J A福岡市の地域貢献活動の一環として地域活性化に係る各種活動や環境保全活動等を行う団体を認定・表彰して功績を称えるものです。

食物研究部は、栄養士や管理栄養士を目指す学生が食のスペシャリストとしての知識を用い、科学的な根拠に基づいた食育に関する活動を積極的にしているサークルで、食育に関する活動は学内にとどまらず、地域・学校・団体と連携し生産者や消費者、教育関係者などさまざまな方々との連携を通じ、「食の大切さ」をより詳しく伝えていく活動を行っています。

昨年の主な活動はJ A福岡市アグリスクールを通しての食物の定植から収穫、調理加工、商品販売まで一連の体験や、地域交流を目的とした城南区別府公民館



での子どもクッキング、久山秋の食フェスタでの出店、中村学園大学学園祭（霜月祭）での出店等です。学内では経験することのできな

い、土に触れながらの農作業などを経験することによって食品について考える力が養われ、将来、農業と消費者の間に立つ栄養士・管理栄養士として、さまざまな視点から考えることができるように取り組んでいます。

流通科学部「海外留学スカラシップ制度」留学生激励会

平成26年7月31日、流通科学部「海外留学スカラシップ制度」を利用して海外留学する学生の激励会が行われました。流通科学部

「海外留学スカラシップ制度」は、実社会で実務的に通用する語学力を身につけることを目的として、優秀な学生を半年もしくは1年間海外の友好提携大学等へ特待生として派遣するものです。



今年度は、オーストラリアに3名、ニュージーランドに2名の計5名が選ばれ、甲斐学長、片山流通科学部長並びに指導主任が見守るなか激励会が行われました。甲斐学長や片山流通科学部長からはなむけの言葉が贈られると、学生は「大学の代表として恥じることのないよう実り多い留学生生活をおくります」など一人ひとり留学への期待と意気込みを語っていました。

城南区・中村学園大学共働事業
―わくわく体験！
食の安全と食品検査☆―

平成26年8月8日、本学と福岡市城南保健所の共働事業で、城南区民（小学4年生以上を含む）を対象とした「わくわく体験！食の安全と食品検査☆」を開催しました。この事業は、行政と大学が協力して食品の安全に対する正しい知識の普及に努め、食に対する安心を深めることを目的としており、今年で4回目を迎えます。



参加者は、短期大学部食物栄養学科の小田隆弘教授及び古田宗宜助教のデモンストレーションの後、本学学生からの補助を受けながら甘味料の違いを舌で調べる試験や油の変質検査、鶏卵の鮮度判定などの実験を行い、市販品の甘味料の推定などを体験するとともに、油の正しい保存法や健康との関わりなどを学びました。

続いて、食育館において食育館長の短期大学部食物栄養学科寺澤洋子教授から「ありのままの食生活で良いのか？」をテーマに、子どもにも分かりやすい食育講座が行われました。健康には栄養・運動・休養の3つが大切であり、最適な栄養バランスは一汁三菜の食事形式であることなど食をめぐる現状と課題から食の



講座が行われました。健康には栄養・運動・休養の3つが大切であり、最適な栄養バランスは一汁三菜の食事形式であることなど食をめぐる現状と課題から食の

重要性について提唱されました。

また、病原菌のプレパレート観察では病原菌のスケッチや顕微鏡にカメラを当てて写真撮影を行うほか、小田教授による「正しい食品知識を持つ」というテーマに食中毒の原因と対策をはじめ消費期限と賞味期限の違い、添加物や遺伝子組換え食品などについての講話が行われました。

参加した区民や子どもたちは、楽しみながら実験に取り組み、積極的に質問されるなど意欲的な様子が見られ、食の安全・安心についての理解が深まる有意義な時間となりました。



教員免許状更新講習

この講習は、定期的に最新の知識を身に付け教員に必要な資質能力を保持するために受講が義務付けられており、全国から高等専門学校までの現職の教員、また過去に勤務した経験がある教員に加え、本年度より幼稚園教諭免許状を保有する保育士にも受講対象が拡大されました。

開講期間は8月、10月、11月の計8日間、必修講習1科目、選択講習11科目を開講し、30代から50代の先生方、延べ450名が受講されます。

受講された先生方からは、「今後の指導に活用できる内容で、とても満足した」とや「自分の教員生活を振り返る良い機会になった」と等の感想が寄せられました。詳細は、本学HPをご覧ください。



“夢”のつまった おとまり保育

あさひ幼稚園 教諭 久保 綾香

あさひ幼稚園では、毎年7月に年長組のみ1泊2日の「おとまり保育」を行っています。

今年度は『“夢”のつまったおとまり保育』というテーマを掲げ、子どもたちと“自分たちだけのおとまり保育”を創り上げていきました。子どもたちに話を聞くと「遠くへ出かけたい」「みんなで露天風呂に入りたい」「お寿司が食べたい」などなど、目を輝かせて、やりたいことが盛りだくさんの計画ができましたが、いざ当日が近づいてくると、初めて保護者から離れておとまりをすることに對して、不安も強くなりました。『最後まであきらめない!!』『つよい子になろう!!』とみんなで励まし合いながら準備を進めました。当日は、雨が降ったり止んだりでしたが、子どもたちの願いが届いたのか、外での活動になると奇跡的に雨が止み、2日間予定通り行うことができました。今宿野外活動センターでは、大自然の中で自分の好きな所へ行き、伸び伸びと原っぱを走ったり、虫探しに没頭したりして、満喫していました。また、初めてのグループ活動では、自分の意見を伝えることや相手の意見を聞くことなど、葛藤しながらもみんなで協力する楽しさを少しずつ感じていたようです。おとまり保育を通して、自分たちで考え、夢を叶えていく充実感を味わってくれたのではないかと思います。おとまり保育最終日、大きなリュックを背負い帰っていく子どもたちの後ろ姿が、いつもより大きく頼もしく見えました。

これからもあさひっこは、さまざまな行事や遊びにチャレンジしていく中で、自分で考え、みんなで協力していくことで、『つよい子・やさしい子・かんがえる子』に磨きをかけていくことでしょう。



今宿野外活動センターでの川遊び



の受験生・保護者の方々が来場され、大盛況のうちに終了しました。今年度より受付事前エントリーがスタートし、教員や在学生による相談コーナー、模擬授業、入試対策講座、学生イベントの福岡県外出身学生との懇話会、サークル紹介、スタンプラリーなど、本学の教育内容や特色について理解を深めるためのさまざまなイベントが催されました。

春のオープンキャンパスは、平成27年3月21日に開催します。

2014 夏のオープンキャンパス

平成26年8月9日、23日の両日、大学及び短期大学部において、「2014夏のオープンキャンパス」を開催しました。台風接近の影響もありましたが、2日間で4,412名の



ハラスメントに関する研修会

平成26年9月9日、西2号館において教職員を対象に「ハラスメントに関する研修会」が開催されました。この研修会は、学生や教職員がハラスメントのない環境で安心して就学・就労に専念することができるよう共通認識を身に付けることとして毎年開催されています。



今回の研修は、「アカデミックハラスメント防止のために」と題し、NPO法人FFA フォローワーシップ協会理事の高山里美先生を講師にお招きしました。はじめに、「大学にとってハラスメント対策は学生・教職員の職場環境、教育環境だけでなく生命・心身に関わる緊急の課題である」と強調され、セクシャルハラスメント、アカデミックハラスメントやパワーハラスメントの定義を改めて

確認するとともに、ハラスメントの実態や処罰の対象となりえるハラスメントの具体例を詳しくご紹介いただきました。また、加害者のみならず、学生に対する就業環境整備義務や労働者に対する安全配慮義務を負う大学にも法的責任が問われることから、ハラスメント発生の原因を認識しておく必要があることが述べられ、被害が顕在化されにくい閉鎖的な環境など複数の要因を挙げて説明されました。

最後に、「人権意識を持ち、相手を尊重する気持ちが大切である」など、加害者にならないために一人ひとりが認識すべきポイントを教示され、日頃の言動や行動を振り返るとともに、ハラスメント防止を再認識する良い機会となりました。

指導主任研修会

平成26年9月10日、西2号館において平成26年度指導主任研修会が行われました。本学では、学生の情緒豊かな人格形成を支援するため指導主任制度を設けており、教職員が適切な援助と指導助言を行えるよう共通認識を図る場として毎年研修会を開催しています。

今回の研修のテーマは『就職の現状と今後の課題』でした。研修会では、中村理事長から学園60周年の歴史を振り返りながら創立者の想いや本学の伝統的な教育の取組みについて講話が行われました。続いて、就職委員会委員及び就職課から本学学生の就職活動状況や社会ニーズの変化について就職系統別に報告があり、学部学科の垣根を越えた認識の共有が図られました。

また、キャリアアソシエーションの本田勝裕氏による講演『学生が主体的に就職活動をするために私たちができること』が行われました。学生を取り巻く環境や就職活動の実態についても説明され、社会の変化や企業の実情を捉え即応することが肝要であると述べられました。学生が、不安を払拭し主体的に就職活動をするために私たちができる支援を探り、意識を高める研修会の場となりました。



第21回 教育ワークショップ

平成26年9月10日、西2号館において「第21回教育ワークショップ」が開催されました。このワークショップは、毎年本学の教職員を対象に開催されている全学的なFD活動（教育内容・方法の改善に向けた組織的取り組み）の主要事業で、今回は、『学生の多様化に備えた初年次教育』をテーマに行われました。

基礎教育センター等の各大学の新しい取り組みに関する基調講演のほか、他大学のさまざまな先進事例が紹介され、本学オリジナルの新たな取り組みや、ステークホルダーへの発信力の強化が提言されました。



また、各学部・学科において推進する初年次教育の実践報告が行われ、教育効果や今後の課題についての情報が共有され、ワークショップ終了後は教職員交流会が催され、教職協働に向け学部・学科や所属を越えて親睦を深めました。

平成26年度
前期学位記授与式

平成26年10月1日、中村学園大学・中村学園大学短期大学部の前期学位記授与式が行われました。学位記授与式では、学長をはじめとする関係教職員が

見守る中、卒業生一人ひとりに学位記が授与されました。

甲斐学長は、「学位記を手にした喜びと周囲の方に対する感謝の気持ちを忘れず、これからの人生で苦難に遭遇した時は、学園祖中村ハル先生の遺訓である『努力の上に花が咲く』を思い出して欲しい」とはなむけの言葉を述べられました。



学生の表彰

福岡県栄養改善学会奨励賞



大学院栄養科学研究科
御手洗 早也伽さん

平成26年
9月23日、
第40回福岡
県栄養改善
学会が開催
され、本学

大学院栄養科学研究科の御手洗早也伽さんによる研究発表「エコクッキングが煮干し汁の溶出成分と呈味成分に及ぼす影響」《御手洗早也伽（本学大学院生）、三成由美教授（栄養科学部）、徳井孝客員教員及び学外研究者》が奨励賞を受賞しました。

本研究は、CO2削減を考慮した食材の調理法を開発するために、加熱特性の異なる調理器具を用いて溶出成分や呈味成分を比較検討したものです。

本研究の結果は、学校現場における栄養教諭が環境を考慮した食育を実施する際に活用される家庭科の教科書に導入するよう検討されています。

教員の表彰

第6回

アジア栄養士会議ポスター賞



教授 三成 由美

平成26年8月
21日から24日に
かけて、第6回
アジア栄養士会
議が台湾（台北
市）で開催され、三成由美教授（栄養科学部）が「THE INTESTINAL MICROBIOTA IN ELDERLY INPATIENTS WITH GOOD AND POOR NUTRITION」をテーマに発表を行い、ポスター賞を受賞しました。栄養士の国際会議は、世界の栄養士が集結する国際栄養士会議とアジアの栄養士が集うアジア栄養士会議が交互に2年の間隔をあけて、それぞれ4年毎に開催されています。

福岡県感謝状



教授 今井 克己

平成26年9月
23日、福岡県知
事から今井克己
教授（栄養科学部）へ感謝状が授与されました。この感謝状は、長年に亘り、栄養士・管理栄養士養成に尽力された功績に対し贈られるものです。

日本摂食嚥下リハビリテーション学会奨励賞

平成25年9月、第19回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会にて発表された研究「黒大豆煮汁添加ゲルの嚥下



特性《山本（時藤）亜衣助教（栄養科学部）、吉岡慶子（名誉教授）及び産業医科大学蜂須賀研

二教授他》が平成26年9月に奨励賞を受賞しました。



一般社団法人日本摂食嚥下リハビリテーション学会は摂食嚥下リハビリテーション学の研究、教育、臨床、普及、促進を図り、国民の健康と福祉に寄与することを目的としており、奨励賞は研究発表の中から新規性、論理性、発展性などの観点の下に審査が行われ、翌年に表彰されるものです。

福岡県栄養改善学会奨励賞



常勤助手 入来 寛

平成26年9月
23日、第40回福岡県栄養改善学会が開催され、入来寛常勤助手（栄養科学部）

の研究発表「高齢入院患者の入院時の栄養状態と腸内細菌叢との関連（第2報）」《入来寛常勤助手（栄養科学部）、三成由美教授（栄養科学部）、徳井孝客員教員》が、奨励賞を受賞しました。

なお、この研究は産学連携で、株式会社西部ガス、株式会社ヨコフーズから研究支援を受け、社会医療法人陽明会小波瀬病院の高橋治城副院長と共同で実施したものです。

教職員の動き

◎採用人事（平成26年7月1日付）



学生課課員

中野 麻美

◎配置換え人事（平成26年10月1日付）

総務課課員 石川 文子（女子中高事務室員）
就職課課員 植村さおり（福祉センター事務室員）
情報処理センター事務室員 川田 育実（入試課課員）
入試課課員 古閑 希（就職課課員）
女子中学校・高校事務室員 田中 理奈（教務課課員）

◎退職人事（平成26年9月30日付）

助手（大学）

楊 萍

中村学園女子高等学校 優勝報告

―陸上部が全国高校総体 走り高跳びで優勝、剣道部・ ソフトテニス部は準優勝―

平成26年7月30日から8月3日まで、山梨県で開催された全国高校総体（陸上競技）で、走り高跳びに出場した中村学園女子高等学校3年生の仲野春花さんが、自己ベストに並ぶ1メートル78センチを記録し、優勝を果たしました。



昨夏から自己記録を12センチ伸ばした仲野さんは、大会直前には1メートル50センチを一度も超えられないスランプに陥ったそう

ですが、木林裕盛監督の助言で、持ち前の思い切りが復活。大会が始まると「早く跳びたい」と思うまでに復調し、最高のジャンプで栄冠を勝ち取りました。

なお、仲野さんはこの優勝が評価され、日本陸上競技連盟からフランスで開催される「デカネーション2014」へ日本代表選手として派遣されました。

また、大会2連覇を目指した剣道部とソフトテニス部は、惜しくも準優勝となりましたが、その実力を存分に発揮してくれました。

中村学園三陽高等学校 優勝報告

―ヨット部が 全国高校総体優勝―

神奈川県江の島ヨットハーバーで平成26年8月4日から8日まで開催された全国高校総体ヨット競技大会において、中村学園三陽高等学校ヨット部がFJ級デュエットの優勝を果たしました。



ラストタイトルの栄冠に輝く

平成5年の土浦大会から22回にわたり採用されてきた「FJ級ソロ・デュエット」方式最後の大会として高校ヨット界において重要な意味のあった今大会。その最後の栄冠は三陽高等学校ヨット

部に輝き、5日間にわたる熱き戦いは幕を閉じました。

また、三陽高等学校ヨット部にとって今年は創部20周年の記念すべき年でもあります。それに華を添える優勝となりました。

前人未踏の記録を樹立 （二つの時代を牽引してきた力）

平成11年に史上初の完全優勝（ソロ優勝・準優勝・デュエット優勝）を果たし高校ヨット界にその名を轟かせた三陽高等学校ヨット部。その後もデュエット優勝三連覇、完全優勝3回などの驚異的な記録を樹立してきました。今回の優勝で平成8年の創部以来インターハイにおいてソロ7回、デュエット8回の優勝を手にし、インターハイ最多優勝記録を更新しています。

まさに総合力での勝利

「ソロ・デュエット時代を牽引してきた」とも称される彼らの無類の強さの秘



密は「チーム力」です。厳しい練習をともに乗り越え、喜びも苦しみも分かち合う。この一体感と絆の強さが、これまで数々の勝利をもたらしてきました。

出場3艇のソロの結果は3位、7位、11位。最終6レース1位でフィニッシュを飾った「赤木・北田」組は共に高校からヨット競技を始めた選手。ジュニア出身セーラーはもちろんのこと、高校から始めたメンバーも非常に健闘した大会でした。全員の力が存分に発揮されたからこそこの勝利だったと言えます。

外部資金の受入れ状況

（平成26年6月～10月受入分）

受託研究

【研究者】 太田 英明（栄養科学部・教授）
【研究課題名】 沖縄ブランド農産物ブランド力強化のための特性評価
【企業名等】 沖縄県農業研究センター
【研究期間】 平成26年4月1日～平成27年3月10日
【金額】 3,500,000円

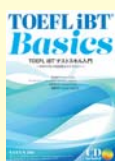
研究助成

【研究者】 三成 由美（栄養科学部・教授）
【研究課題名】 健康に寄与する薬膳メニューの研究開発
【企業名等】 西部ガス株式会社
【研究機関】 平成26年4月1日～平成27年3月31日
【金額】 1,500,000円



教員の出版物

著者は、本学教員のみ記載、
（ ）内は出版社、発行年月



「TOEFL iBT Basics」

津田 晶子
食物栄養学科・准教授 共著
（南雲堂 平成26年9月）



「保育者養成のための『ピアノの基礎』指導法 ピアノの学び方」

小川 和子
幼児保育学科・准教授 単著
（権歌書房 平成26年7月）



中村学園創立60周年記念企画
中村学園大学丸分り
60秒 MOVIE 大上映会
13:00~15:00 IN 体育館

中村学園大学の皆さんから募集した
沢山の60秒MOVIEを部門別に上映します。
優秀な作品には豪華景品が…!!
これを見ればあなたも中村マスター!!

N-1グランプリ

11:00~12:00 IN 野外ステージ

中村1"面白い"という王冠を
手に入れるのは誰だっ!!
去年に引き続き好評の企画。
見どころです☆

のど自慢

11:00~13:00 IN 野外ステージ

のど自慢は、歌うま王者決定戦です!!
歌って王座を狙うもよし。
見て聴いてうっとりするもよし。
出場者も観客の皆さんも楽しめます☆

6大学合同スタンプラリー

豪華賞品盛りだくさん! 6大学制覇しよう!

- 福岡大学
- 中村学園大学
- 福岡女学院大学
- 九州大学
- 西南学院大学
- 筑紫学園大学

B級グルメ

素材や作り方にこだわり味は
スペシャル級! 値段はお手頃!
中村のB級グルメをぜひ!!

ちびっこパーク

- ★中村アドベンチャー
- ★のびのび広場 など



中村学園大学
中村学園大学短期大学部

広報誌セロリの定期購読について

定期購読をご希望の場合は、購読料（2年分）として郵便小為替1,200円分と、郵便番号・住所・氏名・電話番号を書いた紙片を同封のうえ、学事課宛にお送りください。なお、広報誌の発行は、年4回（4・7・10・1月）となります。
※保護者の方には毎号送付しています。

【申し込み先】〒814-0198 福岡市城南区別府5-7-1 中村学園大学 学事課「広報誌定期購読申込」係